

皿回しと草笛で幼児から高齢者までの交流を促進

活動地域（福岡県筑紫野市）

男性のプロフィール

氏名：藤木 徳実さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：国立大学教授を退職後、地元に戻り、地域活動に参加。行政区長を務めたり、小学校や公民館などで皿回し指導や、高齢者施設で草笛を披露したりしている。

活動開始のきっかけ

特技を身に付け、楽しい時間・空間を共有したい

定年を機に、戦後から離れていた墳墓の地（両親と両祖父母が筑紫野市出身）へ戻りました。以前から月に2、3度は足を運んでいた関係から顔見知りが多く、地元に戻ると公民館長や町内会長などの役に推されました。役を引き受けて、盆踊りや敬老会、旅行会、忘・新年会等で先輩老友をもてなすにあたり、並のカラオケだけでは物足りなさを感じ、何か特技を身につけようと思ったのがきっかけです。

近くに太宰府天満宮があり、境内へ行けば色々な芸事が見られます。それらを見学後「サル回しは無理でもサラ回しなら！自分も挑戦してみよう」と思い立ち、一人で研究し、技を会得しました。そして、役員仲間十数名にも練習を呼びかけ、地域の行事で披露するようになりました。また、コミュニティに「皿回しの体験コーナー」を開き、老友を含めた参加者たちにも体験してもらうようにしました。マンネリにならないように、翌年は草笛やぬいぐるみ踊り、その翌年はヒョットコ踊りという具合に、技を徐々に広げていきました。

皿回しも草笛も上手くなるためには練習が欠かせませんが、退職したことで、時間に余裕が生まれたことが後押ししてくれました。また、いずれも適度の運動と頭脳への刺激になります。自分自身も楽しんでいますが、老友の趣味を増やしつつ楽しませることができたと自負しています。

活動の内容

福祉施設や小学校などで披露。リクエストがあれば、いつでも

「回しもの」の演技は平成16年ごろから、亡父母の幼友達の方々が入所されている施設や、孫が通っている小学校などでやり始めました。それ以来、年に数回の頻度で披露しています。

草笛の主な演奏曲は、表彰式曲・ヘンデルの「見よ、勇者は帰らぬ」やビゼーの「アルルの女」、季節の童謡や唱歌です。一人だけの草笛吹奏でも、野外なら30～50m、小学校の講堂程度の広さなら十分に伝わる音量を出すことができます。ほぼ毎日、近所の小学校の通学見守り・あいさつ運動をされていて、小学生からリクエストがあればいつでも草笛を吹いています。

最初は町内で交友が広がり、次いで市の生涯学習センターでボランティアバンクの一員になったことから、他の町内会の公民館行事、デイケアなどの高齢者施設、小学校、幼稚園、託児施設、知的障害者施設などへ派遣され、草笛や皿・桶・傘の「回しもの」を披露するようになりました。



お年寄りが涙を拭きながらお聴きになる姿に感動

ある高齢者施設で「故郷（ふるさと）」を草笛吹奏したとき入所者の方々が涙を浮かべたり、転出なさる先生のリクエストで「揚げば尊し」を吹いたとき目をうるませて、聴いてくださいました。こうした経験は度々あるものではありませんが、そのときは思わず感動し、嬉しい思いをさせていただきました。

草笛の音は澄んだ単振動音ですから、遠くまで届きますし、泣いていた子どもが泣き止んだりします。初めて音色を聞いた子どもたちはもの珍しさから、こちらに近寄ってきます。それにつられてお母さんたちも近寄ってきて、望外の交流で喜びを感じることもあります。

野外で吹くと、犬が走り寄って来たり、どこからともなく鳥が寄って来ることがあります。

周囲との関わり

地域の様々な世代との関わりが実現

生涯学習センターの仲介で出前出演するうちに、お年寄りや子どもたちだけでなく、一般の方も興味を示し、教えを請われることがあります。多くの人に注目され、交流することで良い刺激を受けることもありますから、ぼんやりして居られず認知症予防に効果があるかもしれません。

草笛の合奏は不可能ではありませんが、深呼吸の連続のため目まいが心配で、20分以上は続けられません。また、音がとぎれたり、不協和音も心配されるため、合奏は難しいというのが実感です。それらの難点を克服するほどの熱意集団を結集できれば、集会のアトラクションとして機能するでしょう。

直面した課題と解決方法

材料はリサイクル材。図柄を選び、試作することも楽しみ

草笛は道端の草でつくれますが、破れやすいことと、衛生面を考えて、最近はPPというマークの付いたプラスチックの薄片、パンや飴玉の包み紙、PETボトルのカバー材などを使うことが多くなりました。不要品の再利用ですから、材料費はかかりません。草なら約1オクターブ、プラスチック薄片なら1オクターブ半ぐらいの音階が出せます。材料の厚みや弾性度によって半径を変え、唇に合う適当な丸みがどれくらいかを研究していますが、これは苦勞というより、楽しみです。

「回しもの」には、手品のような種や仕掛けがありませんから、上達するためには練習しかありません。やさしい対象から入っていけば、難しいものでも回せるようになります。さまざまな施設で演技、演奏することが技術の向上につながります。

これからの展望

「草笛」と「回しもの」で健康増進も

「回しもの」は腰と胸筋を伸ばし、上を向いてやります。草笛は息の長い腹式呼吸の連続で、呼吸筋の鍛錬になります。日常生活で使わない筋肉を鍛えますから健康増進に役立つように思います。草笛は中国語で「吹葉」、英語で「reed」といい、外国でも通用します。もし日当が稼げるくらいに上達すれば、プロのエンターテイナーに挑戦する道もあるかもしれません。

私としては自分の歳を忘れて、地域の老友幼友と仲良く、ストレスを感じない程度のボランティア活動をしながら、少し上級を目指して草笛や「回しもの」を続けていきたいと思っています。